

出典：裁判所ホームページ（<https://www.courts.go.jp>）の裁判例情報をもとに作成

事件番号	昭和 43(オ)34	原審裁判所名	東京高等裁判所
事件名	建物収去土地明渡請求	原審事件番号	昭和 41(ネ)1239
裁判年月日	昭和 43 年 6 月 21 日	原審裁判年月日	昭和 42 年 10 月 3 日
法廷名	最高裁判所第二小法廷		
裁判種別	判決		
結果	棄却		
判例集等	集民 第 91 号 441 頁		

判示事項	賃料の不払をもつて賃貸借の基礎たる信頼関係を破壊するものとは認められないとして右不払を理由とする賃貸借契約の解除が許されなかつた事例
裁判要旨	(省略)

全 文	
主 文	本件上告を棄却する。 上告費用は上告人の負担とする。
理 由	上告代理人田子璋の上告理由について。 被上告人が賃料の支払を拒絶するに至つた事情に関する原審の事実認定は、原判決挙示の証拠関係に照らし首肯することができ、右認定判断の過程において、原判決には何らの違法も存しない。そして、右事実によるときは、右賃料不払の一事をもつてはまだ賃貸借の基礎たる相互の信頼関係を破壊するものとはい難く、これを理由に賃貸借契約を解除することは許されないとした原審の判断は、正当といふことができる。論旨は原判旨を正解せず、右判断と異なる独自の見解ないし原審の認定しない事実を前提として原判決の違法をいうものにほかならず、採用することができない。 よつて、民訴法四〇一条、九五条、八九条に従い、裁判官全員の一致で、主文のとおり判決する。 (裁判長裁判官 奥野健一 裁判官 草鹿浅之介 裁判官 城戸芳彦 裁判官 石田和外)

※参考：判例時報 529 号 46 頁